



「さくらお 目録 第101－136号」

平成22年4月吉日作成

発行	号	さくらお 第101－136号 目次	文責(敬称略)
平成10年1月1日	101	新年おめでとうございます 連教寺と所蔵医療関係の文書から 文政八(一八二五)年の庶民の旅(四) 平成九年丁丑の会の動き 佐方地区からのハワイ官約移民はあった? 折敷畑山一つゆ太郎 廿日市の歌碑(十七)	江川義雄 高本等 河畑清三 妹尾治人
平成10年4月1日	102	蘭医「小倉玄州」のこと -廿日市のパイオニア- 文政八(一八二五)年の庶民の旅(五) 挨の郷に在った「種篋」と云う駅名に就いて 廿日市の民話 観音山の天狗 原 故川原盛氏より聞いた話 可愛川の鴨 廿日市の歌碑(十八)	河畑清三 高本等 渡邊通 妹尾治人 大嶋敦子
平成10年7月1日	103	長州戦争こぼれ話(一) 文政八(一八二五)年の庶民の旅(六) 弾丸列車計画の夢の跡 洞雲寺前に枕木の杭 極楽寺山の自然観察 古文書の面白さ	大嶋敦子 高本等 河畑清三 妹尾治人 桑原貞紀
平成10年10月1日	104	長州戦争こぼれ話(二) 文政八(一八二五)年の庶民の旅(七) 後畑の蛸 飢える農民の動き	大嶋敦子 高本等 妹尾治人 河畑清三
平成11年1月1日	105	謹んで新年のお慶びを申し上げます 厳島棚守の寄進した石灯籠 長州戦争こぼれ話(三) 春の七草 佐方分校の思い出ばなし	高本等 大嶋敦子 妹尾治人 河畑清三
平成11年4月1日	106	宮内の宮迫明神の伝説 故・宮内 宮本詩朗氏の話 ハリス・ヒューズケン 滞日日記より見た日本 不思議な銀杏の木 郷文研平成十戊寅の動き 県史協尾道大会に参加して	河畑清三 妹尾治人 大嶋敦子
平成11年7月1日	107	廿日市中学校の有明文庫 安芸のひとつ火と泉水峠を歩く 廿日市の句碑 31	大嶋敦子 妹尾治人 大嶋敦子
平成11年10月1日	108	新宮社改築聞き採り帖 住吉桜土手から串戸浄化センターを歩く するすみ茂助の墓	佐賀広幸 妹尾治人 大嶋敦子
平成12年1月1日	109	頌春 毛利元就の厳島合戦 渡海の陽暦年月日と地御前での行蹟 -序 日の出を拝む 会員表彰者の紹介 県外臨地研修旅行 -神辺・井原市・矢掛町 -	渡邊通 妹尾治人 佐藤
平成12年4月16日	110	郷文研会長就任にあたって 郷文研の歩んだ道 毛利元就の厳島合戦 渡海の陽暦年月日と地御前での行蹟 廿日市市の木・桜 蒸気機関車の遺品が小学校に置かれている 旅人・碁六をささえたもの	山田幸太郎 高本等 渡邊通 妹尾治人 河畑清三 落合繁

発行	号	さくらお 第101-136号 目次	文責(敬称略)
平成12年11月30日	111 112 合併号	郷土文化研究会発足の頃 -当初は郷土教育研究会といていた... 江戸の刑法 御定書百箇条 宮内村の俳句 タンポポ異変 県外臨地研修旅行 -津和野-	伏本節夫 桑原貞紀 大嶋敦子 妹尾治人 佐藤
平成13年1月31日	113	廿日市市郷土文化研究会の会長を受けて 松竹梅 宮内北山の地層 第二二回 県史協 廿日市市大会開催要領	山田幸太郎 妹尾治人 大嶋敦子
平成13年7月1日	114	急報 芸予地震による廿日市の文化財、被害報告 第廿二回広島県郷土史研究協議会 代表者会議廿日市大会記念講演 前広島県知事 竹下虎之助先生 安芸と備後 編集後記-被害を調査・記録しておくのは「郷・文研究会」の責務と考える 昭和59年6月25日【震度3】の地震があったことが「さくらお第八号」で報ぜ られている。この時のうが山の塔岩五層の頂上岩が谷へ落ちた。塔岩に は伝説があり「元旦の朝にこの頂上岩で金の鶏が啼く」-寄稿者 高本等	
平成13年12月16日	115	第廿二回広島県郷土史研究協議会 代表者会議廿日市大会記念講演 前広島県知事 竹下虎之助先生 安芸と備後(続編) 宮内の俳句 千両、万両 はつかいちの鰻絵(コテエ)	大嶋敦子 妹尾治人 風間可世
平成14年3月5日	116	念頭所感 廿日市の昔話 桂公園(桜尾城跡) 急報 桂太郎碑 現在地より北へ約二〇m移動し碑面は宮島に対す。 新幹線乗務アラカルト	山田幸太郎 大嶋敦子 妹尾治人 西田郁人
平成14年7月10日	117	備北の風土 雑草の詩 高尾山遺跡を中心とする高地性集落遺跡群について ナウマクさん(寒行の話) 菅梅素行師・浜崎保 両氏の談話 山田幸太郎会長逝去 追悼の辞	竹下虎之助 妹尾治人 藤下憲明 聞き手 大嶋敦子 大嶋敦子
平成14年12月25日	118	追想・故一色征忠さん 故一色征忠氏と町史編纂 -小西三喜男氏に聞く- 一色さんとその歴史講座 -【災害と飢餓】より- 阿品の森	真野勝弘 さくらお編集部 大嶋敦子 妹尾治人
平成15年4月20日	119	歴史の中の戦争と平和 神楽(その一) 荒平舞 春近し	松中進 今田三哲 妹尾治人
平成15年9月20日	120	廿日市市と西国街道 海岸を歩く(串戸港から阿品海岸まで) 御陵衣祭を拝観して 石田米孝先生春の叙勲(勲四等旭日小受綬章)の荣誉に輝く	今田三哲 妹尾治人 徳丸節子
平成16年1月15日	121	御手洗探訪 嘉永新開 廿日市市と西国街道(続き) 瀬戸の滝と細身谷 廿日市の民謡(二) -わらべ唄-	松中進 国光敏夫 今田三哲 妹尾治人 大嶋敦子
平成16年8月20日	122	戦争と宗教 国光姓考察 せせらぎの森 廿日市の民謡 -労働歌-	松中進 国光敏夫 妹尾治人 大嶋敦子
平成16年11月25日	123	佐賀広幸氏の逝去を悼んで 佐賀広幸氏を追悼して 佐方八幡の絵馬 秋の七草	松中進 大嶋敦子 絵馬調査団 妹尾治人

発行	号	さくらお 第101-136号 目次	文責(敬称略)
		御陵衣祭を拝観して(続) -その一『流鏑馬』伝統行事のこと- 唐臼挽きの歌	徳丸節子 大嶋敦子
平成17年4月15日	124	佐方八幡の絵馬(続) 阿品公園 御陵衣祭を拝観して(続) -その二 御陵衣祭と御霊会- 帯掛明神と重り岩 随想 -洞雲寺-	松中進 妹尾治人 徳丸節子 大嶋敦子 松中進
平成17年10月15日	125	厳島神社に関して 廿日市市郷土文化研究会講演会 地御前神社前浜のお浄め 石田先生の遺品展を観て 廿日市 天満宮釜鳴りの神事 極楽寺山の自然観察(一)	岡崎環 井原治之 松中進 徳丸節子 妹尾治人
	126	未発行???	
平成18年4月25日	127	中国文化と日本の文化 小京都津和野探訪 -H18・1・20- 津和野旅行で学んだもの 宮島 弥山登山道石畳道 発掘調査報告について 故 村上幹夫氏より寄贈された書物について	松中進 大嶋敦子 桂共太郎 松中進
平成18年10月10日	128	芸備地方史研究大会を終えて 50年前の故郷を観ながら今の故郷考える 一冊の本が変えた未来と過去 民族芸能伝承館「眺楽座」 研修旅行 -上関 - 極楽寺山の自然観察(二)	徳丸節子 下見隆雄 宮原寛二 橋本洋子 大嶋敦子 妹尾治人
平成19年5月31日	129	生涯学習フェスティバルに参加して 堅田の源右衛門因縁記 宇佐神宮参拝研修旅行 大野史跡めぐり 廿日市町屋焼失の一家族のその後 極楽寺山の自然観察(三)	正木康章 津島千壽枝 大嶋敦子 橋本洋子 国光敏夫 妹尾治人
平成20年3月31日	130	木地師の里を訪ねて 生涯学習フェスティバル 狛犬とその雌雄について 狗賓ぐひん・行者・三鬼大権現・内侍・民謡 極楽寺山の自然観察(四)	宮原寛二 正木康章 川本伸久 大嶋敦子 妹尾治人
平成20年10月30日	131	『明治の名望家 八田家について』 廿日市市郷土文化研究会主催文化講演会 宮島鉄道連絡船 -宮島航路の変遷- 藻塩造り体験記 極楽寺山の自然観察(五) 江戸期の海岸線探査 フィールドワーク	今田進 荒瀬良彦 川本伸久 妹尾治人 三好孝治
平成22年3月31日	132	厳島を詠んだ漢詩を鑑賞する -暫し世を忘れて心洗われる世界に浸ル- 廿日市宿と幻の「大新の桶ずし」 -謎の酢- 宗像露子和歌集 極楽寺山の自然観察(六)	狩野充徳 荒瀬良彦 大嶋敦子 妹尾治人
平成23年3月31日	133	「絵図を歩こう江戸期廿日市宿」 廿日市市郷土文化研究会主催文化講演会 佐方八幡神社 三十六歌仙絵馬額の絵解きと和歌解説 廿日市エリア 広島電鉄宮島線 沿線時代物語 仲秋の鎌倉を訪れて =鶴岡八幡宮例大祭の神事と祭り= 広島湾に幻の黄金郷をみた 高千穂の旅 極楽寺山の自然観察(七)	三好孝治 下見隆雄 荒瀬良彦 徳丸節子 瀬戸文夫 川村みずほ 妹尾治人
平成25年1月31日	134	廿日市市郷土文化研究会主催 平成24年度 文化講演会 「もっと知ろう! 廿日市 「あらめて吉和の紹介です -吉和の歴史民俗資料館-」 枳かけ神社物語 閑谷学校萩菜に参加して 極楽寺山の自然観察(八)	三好孝治 栗栖千代子 青木健夫 星加盛彦 妹尾治人

発行	号	さくらお 第101－136号 目次	文責(敬称略)
平成26年3月31日	135	廿日市市郷土文化研究会主催 平成24年度 文化講演会 「堀田仁助の由緒と事 被害者の証言を聞く会 「姫路城」と「たつの市」を訪ねて 広島県の方言について 大井谷の棚田	荒瀬良彦 一般寄稿 小島貞子 藤田 親 星加盛彦
平成29年6月30日	136	廿日市市郷土文化研究会主催 春期文化講演会 「学者町長・佐伯好郎と景教」 史料からみた 芸州廿日市津和野藩御船屋敷設置年と江戸浅草天文台詳細図 津和野街道『秘話』 【日本の伝統工芸品の現状について】	松崎 哲 荒瀬良彦 松本哲二郎 藤田 親



「さくらお 目録 第101－136号」

平成22年4月吉日作成

発行	号	さくらお 第101－136号 目次	文責(敬称略)
平成10年1月1日	101	新年おめでとうございます 連教寺と所蔵医療関係の文書から 文政八(一八二五)年の庶民の旅(四) 平成九年丁丑の会の動き 佐方地区からのハワイ官約移民はあった? 折敷畑山一つゆ太郎 廿日市の歌碑(十七)	江川義雄 高本等 河畑清三 妹尾治人
平成10年4月1日	102	蘭医「小倉玄州」のこと -廿日市のパイオニア- 文政八(一八二五)年の庶民の旅(五) 挨の郷に在った「種篋」と云う駅名に就いて 廿日市の民話 観音山の天狗 原 故川原盛氏より聞いた話 可愛川の鴨 廿日市の歌碑(十八)	河畑清三 高本等 渡邊通 妹尾治人 大嶋敦子
平成10年7月1日	103	長州戦争こぼれ話(一) 文政八(一八二五)年の庶民の旅(六) 弾丸列車計画の夢の跡 洞雲寺前に枕木の杭 極楽寺山の自然観察 古文書の面白さ	大嶋敦子 高本等 河畑清三 妹尾治人 桑原貞紀
平成10年10月1日	104	長州戦争こぼれ話(二) 文政八(一八二五)年の庶民の旅(七) 後畑の蛸 飢える農民の動き	大嶋敦子 高本等 妹尾治人 河畑清三
平成11年1月1日	105	謹んで新年のお慶びを申し上げます 厳島棚守の寄進した石灯籠 長州戦争こぼれ話(三) 春の七草 佐方分校の思い出ばなし	高本等 大嶋敦子 妹尾治人 河畑清三
平成11年4月1日	106	宮内の宮迫明神の伝説 故・宮内 宮本詩朗氏の話 ハリス・ヒュースケン 滞日日記より見た日本 不思議な銀杏の木 郷文研平成十戊寅の動き 県史協尾道大会に参加して	河畑清三 妹尾治人 大嶋敦子
平成11年7月1日	107	廿日市中学校の有明文庫 安芸のひとつ火と泉水峠を歩く 廿日市の句碑 31	大嶋敦子 妹尾治人 大嶋敦子
平成11年10月1日	108	新宮社改築聞き採り帖 住吉桜土手から串戸浄化センターを歩く するすみ茂助の墓	佐賀広幸 妹尾治人 大嶋敦子
平成12年1月1日	109	頌春 毛利元就の厳島合戦 渡海の陽暦年月日と地御前での行蹟 -序 日の出を拝む 会員表彰者の紹介 県外臨地研修旅行 -神辺・井原市・矢掛町 -	渡邊通 妹尾治人 佐藤
平成12年4月16日	110	郷文研会長就任にあたって 郷文研の歩んだ道 毛利元就の厳島合戦 渡海の陽暦年月日と地御前での行蹟 廿日市市の木・桜 蒸気機関車の遺品が小学校に置かれている 旅人・碁六をささえたもの	山田幸太郎 高本等 渡邊通 妹尾治人 河畑清三 落合繁

発行	号	さくらお 第101-136号 目次	文責(敬称略)
平成12年11月30日	111 112 合併号	郷土文化研究会発足の頃 -当初は郷土教育研究会とっていた... 江戸の刑法 御定書百箇条 宮内村の俳句 タンポポ異変 県外臨地研修旅行 -津和野-	伏本節夫 桑原貞紀 大嶋敦子 妹尾治人 佐藤
平成13年1月31日	113	廿日市市郷土文化研究会の会長を受けて 松竹梅 宮内北山の地層 第二二回 県史協 廿日市市大会開催要領	山田幸太郎 妹尾治人 大嶋敦子
平成13年7月1日	114	急報 芸予地震による廿日市の文化財、被害報告 第廿二回広島県郷土史研究協議会 代表者会議廿日市大会記念講演 前広島県知事 竹下虎之助先生 安芸と備後 編集後記-被害を調査・記録しておくのは「郷・文研究会」の責務と考える 昭和59年6月25日【震度3】の地震があったことが「さくらお第八号」で報ぜ られている。この時のうが山の塔岩五層の頂上岩が谷へ落ちた。塔岩に は伝説があり「元旦の朝にこの頂上岩で金の鶏が啼く」-寄稿者 高本等	
平成13年12月16日	115	第廿二回広島県郷土史研究協議会 代表者会議廿日市大会記念講演 前広島県知事 竹下虎之助先生 安芸と備後(続編) 宮内の俳句 千両、万両 はつかいちの鰻絵(コテエ)	大嶋敦子 妹尾治人 風間可世
平成14年3月5日	116	念頭所感 廿日市の昔話 桂公園(桜尾城跡) 急報 桂太郎碑 現在地より北へ約二〇m移動し碑面は宮島に對す。 新幹線乗務アラカルト	山田幸太郎 大嶋敦子 妹尾治人 西田郁人
平成14年7月10日	117	備北の風土 雑草の詩 高尾山遺跡を中心とする高地性集落遺跡群について ナウマクさん(寒行の話) 菅梅素行師・浜崎保 両氏の談話 山田幸太郎会長逝去 追悼の辞	竹下虎之助 妹尾治人 藤下憲明 聞き手 大嶋敦子 大嶋敦子
平成14年12月25日	118	追想・故一色征忠さん 故一色征忠氏と町史編纂 -小西三喜男氏に聞く- 一色さんとその歴史講座 -【災害と飢餓】より- 阿品の森	真野勝弘 さくらお編集部 大嶋敦子 妹尾治人
平成15年4月20日	119	歴史の中の戦争と平和 神楽(その一) 荒平舞 春近し	松中進 今田三哲 妹尾治人
平成15年9月20日	120	廿日市市と西国街道 海岸を歩く(串戸港から阿品海岸まで) 御陵衣祭を拝観して 石田米孝先生春の叙勲(勲四等旭日小受綬章)の荣誉に輝く	今田三哲 妹尾治人 徳丸節子
平成16年1月15日	121	御手洗探訪 嘉永新開 廿日市市と西国街道(続き) 瀬戸の滝と細身谷 廿日市の民謡(二) -わらべ唄-	松中進 国光敏夫 今田三哲 妹尾治人 大嶋敦子
平成16年8月20日	122	戦争と宗教 国光姓考察 せせらぎの森 廿日市の民謡 -労働歌-	松中進 国光敏夫 妹尾治人 大嶋敦子
平成16年11月25日	123	佐賀広幸氏の逝去を悼んで 佐賀広幸氏を追悼して 佐方八幡の絵馬 秋の七草	松中進 大嶋敦子 絵馬調査団 妹尾治人

発行	号	さくらお 第101-136号 目次	文責(敬称略)
		御陵衣祭を拝観して(続) -その一『流鏑馬』伝統行事のこと- 唐臼挽きの歌	徳丸節子 大嶋敦子
平成17年4月15日	124	佐方八幡の絵馬(続) 阿品公園 御陵衣祭を拝観して(続) -その二 御陵衣祭と御霊会- 帯掛明神と重り岩 随想 -洞雲寺-	松中進 妹尾治人 徳丸節子 大嶋敦子 松中進
平成17年10月15日	125	厳島神社に関して 廿日市市郷土文化研究会講演会 地御前神社前浜のお浄め 石田先生の遺品展を観て 廿日市 天満宮釜鳴りの神事 極楽寺山の自然観察(一)	岡崎環 井原治之 松中進 徳丸節子 妹尾治人
	126	未発行???	
平成18年4月25日	127	中国文化と日本の文化 小京都津和野探訪 -H18・1・20- 津和野旅行で学んだもの 宮島 弥山登山道石畳道 発掘調査報告について 故 村上幹夫氏より寄贈された書物について	松中進 大嶋敦子 桂共太郎 松中進
平成18年10月10日	128	芸備地方史研究大会を終えて 50年前の故郷を観ながら今の故郷考える 一冊の本が変えた未来と過去 民族芸能伝承館「眺楽座」 研修旅行 -上関 - 極楽寺山の自然観察(二)	徳丸節子 下見隆雄 宮原寛二 橋本洋子 大嶋敦子 妹尾治人
平成19年5月31日	129	生涯学習フェスティバルに参加して 堅田の源右衛門因縁記 宇佐神宮参拝研修旅行 大野史跡めぐり 廿日市町屋焼失の一家族のその後 極楽寺山の自然観察(三)	正木康章 津島千壽枝 大嶋敦子 橋本洋子 国光敏夫 妹尾治人
平成20年3月31日	130	木地師の里を訪ねて 生涯学習フェスティバル 狛犬とその雌雄について 狗竇ぐひん・行者・三鬼大権現・内侍・民謡 極楽寺山の自然観察(四)	宮原寛二 正木康章 川本伸久 大嶋敦子 妹尾治人
平成20年10月30日	131	『明治の名望家 八田家について』 廿日市市郷土文化研究会主催文化講演会 宮島鉄道連絡船 -宮島航路の変遷- 藻塩造り体験記 極楽寺山の自然観察(五) 江戸期の海岸線探査 フィールドワーク	今田進 荒瀬良彦 川本伸久 妹尾治人 三好孝治
平成22年3月31日	132	厳島を詠んだ漢詩を鑑賞する -暫し世を忘れて心洗われる世界に浸ル- 廿日市宿と幻の「大新の桶ずし」 -謎の酢- 宗像露子和歌集 極楽寺山の自然観察(六)	狩野充徳 荒瀬良彦 大嶋敦子 妹尾治人
平成23年3月31日	133	「絵図を歩こう江戸期廿日市宿」 廿日市市郷土文化研究会主催文化講演会 佐方八幡神社 三十六歌仙絵馬額の絵解きと和歌解説 廿日市エリア 広島電鉄宮島線 沿線時代物語 仲秋の鎌倉を訪れて =鶴岡八幡宮例大祭の神事と祭り= 広島湾に幻の黄金郷をみた 高千穂の旅 極楽寺山の自然観察(七)	三好孝治 下見隆雄 荒瀬良彦 徳丸節子 瀬戸文夫 川村みずほ 妹尾治人
平成25年1月31日	134	廿日市市郷土文化研究会主催 平成24年度 文化講演会 「もっと知ろう! 廿日市 「あらめて吉和の紹介です -吉和の歴史民俗資料館-」 枳かけ神社物語 閑谷学校萩菜に参加して 極楽寺山の自然観察(八)	三好孝治 栗栖千代子 青木健夫 星加盛彦 妹尾治人

発行	号	さくらお 第101－136号 目次	文責(敬称略)
平成26年3月31日	135	廿日市市郷土文化研究会主催 平成24年度 文化講演会 「堀田仁助の由緒と事 被害者の証言を聞く会 「姫路城」と「たつの市」を訪ねて 広島県の方言について 大井谷の棚田	荒瀬良彦 一般寄稿 小島貞子 藤田 親 星加盛彦
平成29年6月30日	136	廿日市市郷土文化研究会主催 春期文化講演会 「学者町長・佐伯好郎と景教」 史料からみた 芸州廿日市津和野藩御船屋敷設置年と江戸浅草天文台詳細図 津和野街道『秘話』 【日本の伝統工芸品の現状について】	松崎 哲 荒瀬良彦 松本哲二郎 藤田 親